

地域子育てセンター「ゆりかもめ」の歴史 2

～ 「ゆりかもめ」の飛躍 ～

2-1 「森の保育」の拠点「森の家」を建設



1999（平成11）年11月、自性院境内に、木更津社会館保育園「森の家」建設開始。

この年、政府の景気浮揚対策事業として、社会館に、降ってわいたような補助金「少子化対策臨時特例交付金」602万円が交付されることとなった。【偶然その3】社会館は、この年の3月に始めていた「森の保育」のために施設を建設することにし、県を介してその可否を打診した所、厚生省はこれを認めてくれた。県社協からの借入金500万円及び自己資金と併せて21

00万円で木造21坪の囲炉裏付きの「森の家」を、請西自性院境内3000坪の裏山に建設した。

「森の家」の建設は、「森の保育」の存在を広く知って頂きたい機会になった。現在の森の分園「佐平館」の元所有者石渡早苗氏。その申し出「私どもの古い屋敷を社会館は、森の保育で使う気がありますか？よければ譲りますよ。】【偶然その4】につながった。

2000（平成12）年3月木更津社会館保育園「森の家」竣工

2-2 「ゆりかもめ」が保育園内から街の中に展開

2002（平成14）年5月「ゆりかもめ」寺町分館建設着工

2003（平成15）年5月「ゆりかもめ」寺町分館竣工

2003（平成15）年5月「ゆりかもめ」寺町分館に広場

「この指とまれ」開設。

「ゆりかもめ」寺町分館は、2002（平成14）年に宗教法人愛染院が土地建物を確保建設して、檀信徒会館とした上で、広く地域の子育て支援事業にも供するために、社会福祉法人木更津大正会に無償貸与したものである。

木更津駅から徒歩5分位の市街地に、60坪の土地を確保できた【偶然その5】上に、関係者のご理解により、愛染院に建物の建設費4000万円を負担してもらえたこと【偶然その6】も、信じられない幸運であった。



かくして、「ゆりかもめ」は社会館保育園から外に出て、文字通り、地域の中で、地域に直接開かれた、地域子育て支援センターとなった。発足以来8年が経っていた。社会館保育園内にあった、それまでの



建物「ゆりかもめ」を、一時保育専用「ゆりかもめ本館」とし、新館を「ゆりかもめ寺町分館」として区別し、「寺町分館」の開設披露式典には水越市長さんが出席、この式典を「ゆりかもめ」の母達が共催してくれた。

母達の構想力、実行力は目を見張らせるものがあった。【偶然その7】「ゆりかもめ」指導者達が引き出した母達の才能は、「木更津こどもまつり」を成功させ、「ゆりかもめ」の新しい分館「東清分館」開設の時には、開設準備の段階から縦横に発揮された。私が依頼する希望条件一言二言は、彼女たちの頭脳を通過すると、私の予想を遙かに超える結果・作品となって立ち現れるのであった。

2-3 「ゆりかもめ」が「森の広場」を開設

2003（平成15）年11月「ゆりかもめ」森の広場「かくれんぼの森」開始。

「ゆりかもめ」寺町分館がその事業を開始するや、利用する市民が殺到。その利用圧力を分散するために、3歳になった子供達とその親達を、木更津社会館保育園「森の家」とその周辺の森でも受けられるようにしたのが、森の広場「かくれんぼの森」であった。これは、臨時特例交付金の目的に合致していたが、地域子育て支援事業「森の広場」として使うことは、当初、全く想定されていなかったことで、【偶然その8】補助金の更なる有効活用が出来たことは偶然のことであった。今「森の広場」は全国でも希有の例として存在している。

2-4 「ゆりかもめ」東清分館開設

2006（平成18）年4月、旧市立東清保育園の跡地を地域子育て支援センターの広場として拝借整備。

2004（平成17）年3月を以て、利用者激減のため閉鎖されていた、旧市立東清保育園の施設を活用して欲しいという東清地区地元住民の要望が、市議員前田清治氏を通して社会館に届いたのは、2005（平成17）年春。【偶然その9】前田議員は木二小ポプラクラブが木二小校庭を拝借する際に、重要な支援を下された方で、私どもにとっては、ご恩返しチャンスだった。

「ゆりかもめ」寺町分館と、森の広場「かくれんぼの森」に入りきれない利用者を受け容れることで、旧市立東清保育園の活気を取り戻せるかも知れない。その位置が、余りにも木更津市の東のはずれに寄っていたために、そこまで利用者が来てくれるかどうか些か不安はあったものの、広い駐車場を確保して車での来訪を期待した。



結果は、予想以上の利用状況となり、地域活性化の一助となるという当初の目的は、達成の可能性が見えてきた。近くの木更津総合高校周辺が、大スーパーアピタ・ユニクロの出店等、急速に発展し始めたのも追い風になった。

この40台の車を収容する駐車場は、地域の旧家の方、それも市役所職員のご厚意で【偶然その10】確保されたもので、これがなかったら、車での遠来のお客様を受け容れることは困難であった。木更津市児童家庭課金網房雄課長（現福祉部長）を初めとする関係者のご理解ご支援もあって、次々と出てきた課題困難が次々と解決されていく様は、「凄い！」としか言いようがない不思議なことであった。



「東清分館」整備を完璧ならしめた極めつけの偶然【偶然その11】は、元市立東清小学校校長山口満夫先生を「東清分館」の護衛・男性指導者・地元住民及び各機関との仲介者として、お迎えできたことであった。地元市議員前田清治氏が「先生は、私の恩師です。悪いことをすると、あの大きな手でよく張り倒されました。地元で生まれ育った方で、東清地区のことは隅々までご存じです。」とあって、ニコニコと山口満夫先生をご紹介して下さった時は、私も驚くばかりであった。

た。

山口先生は、現在清見台にお住まいであり、私が住職を務める愛染院の、清見台地区担当の世話人さんのお一人であって、よく存じ上げている方だったのだ。その上、地元の禅宗寺院「東泉寺」の老師とは、木二中で一緒に教鞭をとられた仲であった。「東清分館」の大会の度に、「東泉寺」境内を車の駐車場としてお借りするのに、山口先生の口添えがものを言ったことは言うまでもない。